

再 評 価 書

事業名	市町村営広域漁港整備事業		事業区分	豊北漁港	事業主体：伊 勢 市																																			
事業概要	工 期 (下段:当初)	平成 6 年 ~ 平成 2 2 年(予定)	全体事業費 (下段:当初)	(負担率:国:県:他)																																				
		平成 6 年 ~ 平成 1 7 年(予定)		2 , 6 6 5 百万円 (50:25 ~ 35 : 25 ~ 15)																																				
事 業 目 的 及 び 内 容																																								
<p>豊北漁港は、伊勢市の北部に位置し、伊勢湾に注ぐ2級河川外城田川の河口部にある、伊勢市最大の第2種漁港です。この地区における漁業の歴史は古く、昭和30年頃までは、底曳網漁法の「うたせ網」が行われていました。</p> <p>現在は、伊勢湾内での小型機船底曳網漁業や、沿岸域での採貝漁業を中心に営まれています。</p> <p>漁港施設の整備としては、昭和28年の台風13号による災害復旧工事を原形として、漁港局部改良事業や第8次・第9次漁港整備長期計画に基づく漁港修築事業で外郭施設や係留施設の整備を進めてきました。</p> <p>平成13年6月の漁港法の改正により、現在は、広域漁港整備事業として、漁港の整備だけではなく、漁場の整備も含め整備を行っています。</p> <p>事業の目的及び内容としては、</p> <p style="padding-left: 40px;">漁船が安全に操業できるように、防波堤の改修や離岸堤の築造、航路・泊地の浚渫を進めています。</p> <p style="padding-left: 40px;">漁業者の労働環境の改善の対策の一つとして、浮棧橋の設置を行っています。</p> <p style="padding-left: 40px;">水産物の安定供給を視野に入れた魚礁の設置を進めています。</p> <p>又、当漁港に大規模な中間育成施設を設置し、つくり育てる漁業を推進しています。平成17年度秋から稚魚（クルマエビ、ヒラメ、トラフグ等）の育成を行い、付加価値の高い漁獲物の水揚量を確保できるように、放流事業を行います。</p> <p>これらの事業により、就労環境の改善を図り、「生涯一漁師」や「新規就業者の獲得」をめざし、活気のある漁村づくりを行います。</p> <p>平成12年度における再評価時点での事業内容は、全体事業費3,157百万円で以下のとおりでした。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">外郭施設</td> <td>東防波堤 L=60m</td> <td>西防波堤 L=270m</td> <td>護岸 L=404m</td> <td>突堤 L=60m</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">水域施設</td> <td>-1.0m泊地 A=9,780㎡</td> <td>-2.0m泊地 A=4,840㎡</td> <td>-3.0m泊地 A=13,000㎡</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>-1.5m航路 A=32,500㎡</td> <td>-2.5m航路 A=25,000㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">係留施設</td> <td>-1.0m物揚場 L=495m</td> <td>-2.0m物揚場 L=80m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>船揚場 L=20m</td> <td>浮棧橋 3基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">輸送施設</td> <td>道路 L=225m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">漁港施設用地</td> <td>A=1,660㎡</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						外郭施設	東防波堤 L=60m	西防波堤 L=270m	護岸 L=404m	突堤 L=60m	水域施設	-1.0m泊地 A=9,780㎡	-2.0m泊地 A=4,840㎡	-3.0m泊地 A=13,000㎡			-1.5m航路 A=32,500㎡	-2.5m航路 A=25,000㎡			係留施設	-1.0m物揚場 L=495m	-2.0m物揚場 L=80m				船揚場 L=20m	浮棧橋 3基			輸送施設	道路 L=225m				漁港施設用地	A=1,660㎡			
外郭施設	東防波堤 L=60m	西防波堤 L=270m	護岸 L=404m	突堤 L=60m																																				
水域施設	-1.0m泊地 A=9,780㎡	-2.0m泊地 A=4,840㎡	-3.0m泊地 A=13,000㎡																																					
	-1.5m航路 A=32,500㎡	-2.5m航路 A=25,000㎡																																						
係留施設	-1.0m物揚場 L=495m	-2.0m物揚場 L=80m																																						
	船揚場 L=20m	浮棧橋 3基																																						
輸送施設	道路 L=225m																																							
漁港施設用地	A=1,660㎡																																							
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果																																								
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>平成12年度に再評価審査を受けたところですが、再評価実施後一定の期間が経過している事業として、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p>																																								

2 事業の進捗状況と今後の見込み

(1) 完了事業

外郭施設	東防波堤 L=50m	西防波堤 L=270m	護岸 L=84m	突堤 L=60m
水域施設	-1.0m泊地 A=9,780m ²	-2.0m泊地 A=4,840m ²		
	-3.0m航路 A=15,300m ²			
係留施設	-1.0m物揚場 L=495m	-2.0m物揚場 L=80m		
	船揚場 L=20m	浮棧橋 1基		
輸送施設	道路 L=225m			
漁港施設用地	A=1,660m ²			

(2) 残事業

外郭施設	護岸 L=90m		
水域施設	-1.5m航路 A=9,800m ²	-3.0m航路 A=14,700m ²	
係留施設	浮棧橋 1基		
漁場施設	魚礁 V=1,200空m ³		

事業の進捗は、事業費ベースで88%完成し、残事業は12%となっています。
平成22年度には、全体計画の完成を予定しています。

3 事業を巡る社会経済状況等の変化

(1) 漁港漁場整備法の施行による全体計画の見直し

豊北漁港は、第9次漁港整備長期計画（平成6年～13年）の中で豊北漁港修築事業として整備を行ってきました。平成12年度の再評価では、次期長期計画を含めた平成17年度完了予定で、事業継続を了承いただきました。

漁港漁場整備法の施行により、漁港と漁場の総合的かつ計画的な整備の見直しが必要となり、平成14年度から、市町村営広域漁港整備事業として、新たな計画で事業を実施しています。総事業費は、2,665百万円で492百万円減額して実施しています。

全体計画

外郭施設	東防波堤 L=50m	西防波堤 L=270m	護岸 L=174m	突堤 L=60m
水域施設	-1.0m泊地 A=9,780m ²	-2.0m泊地 A=4,840m ²		
	-1.5m航路 A=9,800m ²	-3.0m航路 A=30,000m ²		
係留施設	-1.0m物揚場 L=495m	-2.0m物揚場 L=80m		
	船揚場 L=20m	浮棧橋 2基		
輸送施設	道路 L=225m			
漁港施設用地	A=1,660m ²			
漁場施設	魚礁 V=1,200空m ³			

平成12年度前回の再評価時との主な変更点

外郭施設	プレジャーボート用停泊施設計画を民活事業に移行することによる護岸延長の減少
水域施設	航路の詳細測量実施による浚渫必要面積の減少
係留施設	漁船減少を考慮した浮棧橋の整備箇所数の減少
漁場施設	資源確保・増殖のための魚礁の設置

(2) 財政状況の変化

厳しい財政状況の変化により、事業費が年々減少傾向になっています。それに伴い事業の進捗率が伸び悩むことが予測されますが、浚渫土砂の有効利用や浮棧橋に新しい工法を取り入れることにより、さらにコスト意識の向上をはかり、短期間に事業の完了を図りたいと考えています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4 - 1 費用対効果分析

全体計画の変更に伴い、費用対効果分析結果は1.04となります。

B(便益) = 3,201百万円

C(費用) = 3,067百万円

4 - 2 地元の意向

平成8年11月に、伊勢市7漁協のうち6漁協が合併し、伊勢市漁業協同組合となり、その中心的漁港が豊北漁港となっています。現在、二見町から松阪市にかけての伊勢湾岸沿いの漁協の合併の計画も進んでおり、その中心なる漁港の整備が望まれています。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5 - 1 コスト縮減

旧西防波堤の石積の利用

西防波堤(L=270m)の整備に関して、旧の防波堤が石積であったことから、これら全てを新設防波堤の基礎材料として再利用を行なった結果、約25百万円のコスト縮減を行いました。

航路浚渫土砂の利用

航路浚渫で発生した土砂は、有害成分の有無を確認のうえ、効用の低下している漁場の生産力の回復や水産資源の生息場の環境整備(アサリ漁場造成)をするために覆砂として利用し、約24百万円のコスト縮減を行いました。

5 - 2 代替案

伊勢市には、3箇所の漁港がありますが、第2種漁港である豊北漁港は、伊勢市の中心的な漁港です。新合併漁協の本部としても検討されており、漁港整備を行うには最適地であると考えています。

再評価結果の経緯

当事業は、平成12年度の再評価審査委員会では、漁港整備の計画にあたっては、漁港の将来のあるべき姿、漁村の将来像など、全体計画について明確化した上で、計画することが必要であると、指摘され継続として答申されました。

豊北漁港は、伊勢湾沿いの漁協合併の本部としての位置付けられており、水産資源の持続的利用(つくり育てる漁業の推進)の中核施設となる、大規模な中間育成施設も設置されました。又、流通面の改革として、アサリの電子入札など新しいソフト事業を取り入れた漁港整備を進めています。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、広域漁港整備事業として豊北漁港の整備は必要であり、同要綱第5条1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。